

決算質疑あれこれ



決算審査ってどんなことをするの？



決算審査の6つのポイント

1 予算との比較

予算通りに使われたか？
増減の理由は妥当か？



2 事業の成果・効果

事業の目的は達成できたか？
市民の役に立ったか？



3 お金の使い方の適正性

必要な事業だったか？
費用に見合う効果があったか？



4 財政の健全性

基金(貯金)や市の借金(市債)は適正か？
将来の負担は大きすぎないか？



5 法令・ルールへの遵守

補助金や交付金はルール通り？
契約や支払いの手続きは適正か？



6 市民目線でのチェック

市民にとって必要な事業だったか？
説明はわかりやすいか？
今後どうつなげるか？



技能実習生の税金未払いについて

問 技能実習生が帰国後の市民税滞納について、事業者の協力による徴収状況はどうか。

答 外国人の市税の滞納者は71人で、その内、不納欠損は14件です。事業所の方へは、現在、協力いただいています。また、新たな事業所にも協力依頼を行っていきます。

ふるさと納税

問 ふるさと納税の寄附実績、手取り率、および経費の推移は。

答 寄附受入額は過去最高の49億34万円(令和7年度)を記録しました。経費率は例年約49.89%前後で推移しており、市の手取り率は約50.1%~50.2%となっています。

ふるさと同窓会支援事業

問 令和7年度で一定の役割を終えたのか。

答 市内で同窓会を開催する団体に、記念撮影などに要する費用等を補助してきました。SNS等の普及でスマホで写真も撮影することが増え、必要性が低下し、補助対象と実態に差が生じていますので、政策効果を見直し令和7年度で廃止しました。

大学との連携で地域課題解決や魅力向上

問 連携大学まちづくり活動の詳細は。

答 兵庫県立大学、関西リハビリテーション専門学校、神戸常盤大学、大正大学、神戸学院大学と連携しています。

県立大学は緑の景観イメージのプロジェクト事業、ため池の農地周辺の水辺における微小昆虫等の研究、野草を牛の飼料にする取組みを行いました。関西リハビリテーション専門学校は、自動車運転寿命延伸プロジェクト、神戸常盤大学は鳴門オレンジの普及に向けた商品化、神戸学院大学はカレンデュラのPR活動などを行いました。

少子化対策推進事業

問 少子化の原因として、子どもを産み育てる世代の結婚が少ないとされているが、その為の施策は。

答 淡路市に魅力を感じて住んで頂く為に、効果的なプロモーションを展開していきたいです。若い世代の方々が定住していただくことで婚姻数が増加するということを願っています。

旧火葬場跡地

問 旧火葬場 4箇所(津名、岩屋、室津、東浦)解体後の跡地はどのように利用されるのか。

答 旧火葬場の設置場所は、市営墓地と隣接しています。市営墓地の駐車スペースが狭いため、駐車場として墓地を快適に使っていただけるよう整備しました。

市民相談「すぐやる窓口」

問 対応実績は。

答 令和7年度は361件の相談を受け、65.1%に当たる235件で対応を実施完了しました。



コミュニティスクールの設置

問 設置している学校数や評価は。

答 令和6年度1校から始まり、現在小学校5校で設置されています。地域と学校がこれまで以上に先を見据え、話が進んでいます。

問 学校に地域の方も入っていただく策だが、実際に教員の負担軽減になっているのか。

答 学校側の負担軽減も目的の一つにはありますが、現状は移行期であり、現状そこまで機能していない状態です。

赤ちゃん未来の宝物事業の支援と今後

問 令和7年度に助成金を受けた87名の内訳と、今後の取り組みは。

答 第2子が53名、第3子が25名、第4子が7名、第5子が2名で、そのうち双子が1件ありました。最近の傾向として、若い世代が赤ちゃんを持つということ自体に対して負担感を持っており、その負担感軽減のために平成29年から始まった事業です。

現在はお祝い金に近い趣旨のものになっています。国の動向も現金支給からシフトが変わってきていますので、この事業については検討する時期に来ていると考えています。

災害備蓄品

問 災害備蓄品の備蓄状況は。

答 備蓄品の食料については、南海トラフの被害想定3,800人に対し、行政で3日分(県で1日、市で2日)備蓄出来るように進めています。

また毛布についても同様に備蓄を行い、学校とも協力し配置を進めています。



備蓄倉庫

校内サポートルーム

問 令和7年度に拡充された校内サポートルームの利用状況は。

答 中学校5校・小学校5校に設置され、72人の利用がありました。

不登校の児童生徒が学校に登校する機会を得るとともに、今後不登校になるかもしれない児童生徒の未然防止につながっていると考えています。

問 支援の体制は。

答 支援員13名(うち11名が教員免許保有)を配置しています。

別室での学習や登校時間をずらす配慮により、不登校児童生徒数が減少傾向にあります。

高齢者の達者で長生き運動支援事業

問 利用施設は。

答 温浴施設で4施設(松帆の湯、パルシェ香りの湯、東浦花の湯、丸吉湯)、プール4施設(津名温水プール、第2温水プール、北淡温水プール、東浦サンパーク)です。

問 申請数が減少している理由は。

答 事業数が少なくなり、交通の便が悪く、十分活用されていません。

問 活用されるための方法は。

答 周知を進めていきます。

